

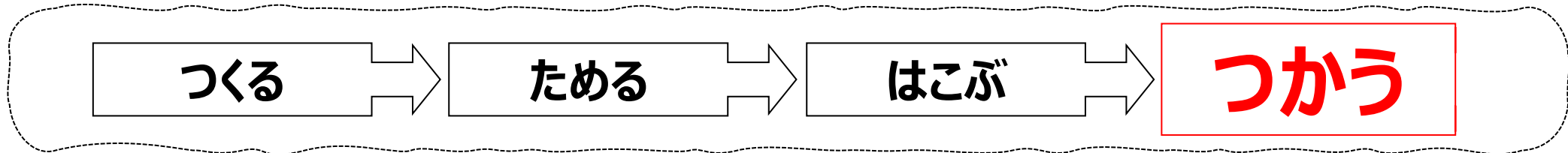
今後の推進会議の取組みについて

万博後のセカンドステップの具体化に向けた取組みの検討

万博後のセカンドステップの具体化に向けて

- 万博に向けて、様々な水素を「つかう」アプリケーションの開発が進行し、これら取組みが社会実装されることが重要。
- そのため、令和7年度は、万博のインパクトを活用した水素利用の定着と拡大に向けて、大阪発の「水素をつかう」プロジェクトについて検討。
- 併せて、そのために必要な「つくる・ためる・はこぶ」の手法についても検討する。

水素利用のステージ



つかうの例)

- ・FC船、FCトラック、FCフォークリフトなど水素利用モビリティ
- ・水素等発電、メタネーション
- ・金属製品製造業での熱工程での水素利用
- ・食品製造業での水素利用（蒸留・焙煎など）

万博後のセカンドステップの具体化に向けて

○各研究会での取組の方向性

引き続き、各モビリティの開発等の動向等を踏まえて開催テーマを設定し、関係する企業等に参画を打診したうえで、意見交換を実施。プロジェクト創出をめざす。

名称	陸上モビリティ研究会	水上モビリティ研究会
研究対象	・FCバス、FCトラックの導入拡大、水素ステーション整備等の物流に関する事項については「おおさか水素ステーション整備促進協議会」で議論。 ・上記以外の陸上モビリティ全般（農機具、ドローン等）を当研究会で扱う	・水素/アンモニアエンジン船の動き ・水素等供給システム（ステーション、バンカリング船等） ・エンジン船、水中ドローン等水上モビリティ全般。
参画打診企業像	荷主企業、旅行会社、貨物/旅客運送事業者 等	荷主企業、旅行会社、船会社、港湾インフラ関係 等